



●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。



●つばめの  
さくら便り  
●4月中旬 燕市内全域

春一番の暖かさとなった4月中旬、桜開花の便りが届きました。満開の淡いピンク色の可憐な花びらが、花見客の目を引いていました。

今日の給食は何か？

市では、学校給食の献立をスマートフォンアプリ「インスタグラム」で紹介する取り組みを始めました。燕市西部・東部学校給食センターでつくっている学校給食を随時公開しています。



○閲覧方法  
 ●右の二次元コードからアクセス  
 ●インスタグラムで「#つばめの給食」を検索

今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもの様子をお届けします！



ドキドキ、ワクワク。  
友だちたくさんできるかな!!  
●4月7日 小中川小学校

待ちに待った桜の季節、新1年生たちが希望に胸を膨らませながら入学式を迎えました。大きな体育館に緊張しながらも、背筋をピンと張って入場する姿はとても立派です。これからは勉強、運動など頑張りたいことがたくさん。少し不安なこともあります。新しい友だちや優しい先生と一緒に乗り越えていくことなのでしょう。失敗を恐れずにチャレンジして、楽しい思い出をたくさんつくってね！



●通水100周年を目前に  
輝くライトアップ  
●4月8日 大河津分水洗堰

昼夜を問わず越後平野を守る大河津分水の「洗堰」「可動堰」「旧可動堰」の姿を幻想的なライトアップでお披露目。8月に控えた通水100周年はもう目の前！



●清潔で美しいまちへ  
クリーンデー燕  
●4月9日 燕市内全域

全市一斉の環境美化活動として行われる「クリーンデー燕」。春のイベントを前に、落ちていた空き缶や枝などの回収にご協力いただき、ありがとうございました。

なるほど! 長善館

長善館史料館 ☎0256・93・5400

●1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。



●2代目館主楊軒、15歳で長善館に入門、文臺の娘・菊子の婿に迎えられた。

大河ドラマ「青天を衝け」で渋沢栄一は「草莽の志士」として新しい国造りを目指したことが紹介されました。越後にも、「居之隊」という組織があり、2代目館主・楊軒はそれに所属し活動していました。文臺は快く思っていなかったようですが、改革や進取という気概を持つ楊軒は、長男（柿園）、次男（彦嶽）を東京に遊学させ、英語・数学を学ばせました。明治18年に英語・数学を教科に加え、維新後の新国家形成に適合した教育を実践し、長善館を発展させました。

▼柿園の詩が記された軸



辛巳の歳新塾を築く。6月に竣えて土木の功を得る。輪奐美を善燭善講す。校旗は長く北の海風に翻る。我が祖其の礎を定む。板弘の人に有りて益隆降たり。是に於いて日を卜し先聖を配す。(中路)重ねて盛宴を開き諸公に見ゆ。

鹿鹿山人 鈴木鹿謹草す

2代館主鈴木楊軒の息子柿園は、1877(明治10)年、17歳で塾の将来を託されて東京に遊学します。東京では、日本の啓蒙思想家、教育者である中村敬宇(正直)の英学塾「同人社」で学びます。1884(明治17)年に帰郷し、長善館の教師として漢学の他に英語・数学を教え、先進的な教育を実践します。この詩は柿園が遊学中に長善館の二階建塾舎が改築、完成した折に作詩されたものです。新塾舎完成を機に改めて長善館の歴史の重みを痛感し、祖父・文臺の偉大な業績に思いを馳せて尊敬の念を表しています。また、長善館の教育が隆盛になっていくことを喜び、今後の発展を祈念する心情が述べられています。柿園の教育に真摯に向き合う態度と、塾生たちに温かい教育愛をもって教授している姿が、脳裏に浮かぶようです。

○展示期間：6月26日(日)まで

今月の一品

越北之鴻都 長善館  
 一教師鈴木柿園の詩

長善館史料館  
 ☎0256・93・5400  
 月曜日休館(祝日の場合は翌日休館)  
 ■入館料  
 大人100円、高校生以下50円 ※団体割引あり



大河津分水コラム  
 次の100年に向けて  
 長善館と大河津分水

大河津分水の構想は、今からおおよそ300年前の江戸時代にまで遡ります。以来、1000人を超える人々が大河津分水の必要性を訴え、私財を投じて請願活動を続けました。その中には長善館の卒業生もあり、小柳卯三郎、萩野左門、鷺尾政直、高橋竹之介らが知られています。そして、大河津分水の実現に大きく影響を与えた一人を選ぶとすれば、大竹貫一が挙げられます。特に明治29年の横田切れ以降の動きには注目すべき部分が多く、例えば、横田切れの惨状を描いた絵画は大竹貫一の郷里である中之島に遺されていたり、浸水範囲地図が大竹邸記念館に収蔵されていたり、また、時の内務大臣であった樺山資紀を水害惨状視察に招聘したりなど、明治40年からの大河津分水工事着工に大きな影響を与えました。水害に苦しむ人々を救うために、自分が為すべきことを実践した長善館の卒業生たち。大河津分水通水100周年が、私たちが故郷のためにできることを考える機会になれば幸いです。



地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.50



こんにちは、観光担当の久保です。

今回ご紹介したいのは、寿町(燕庁舎近く)にある築50年の空き家を改装してオープンした「Gallery SAI」です。オープニング展が、5月6日(金)～23日(月)の期間のうち、金・土・日・月曜日に開催されます(開催時間:午前10時～午後5時)。オーナーは芸術作家であり、燕西小学校や協栄信用組合本店などのモニュメントの制作に携わっている方です。

外出するにも気持ちのいい季節に、ご近所で芸術に触れられる場所ができたのはとても楽しみです。皆さんも、覗いてみてはいかがでしょうか？

左がオーナーの霜島健二さんです。



燕市地域おこし協力隊  
 久保 充徳